

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第631号 2022年9月11日

### 聖母の被昇天ミサ

8月15日（月）11時30分より、教会ホールの聖堂で鈴木真主任司祭主司式、西村英樹助任司祭による共同司式で聖母の被昇天ミサが執り行われました。

ミサの参加者を新型コロナウイルス感染防止対策として「主日ミサのグループ制」ではなく、事前申し出としたことにより、今までお会いすることができなかった信徒の方々と再会することができました。



#### 鈴木真主任司祭説教

「今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう。力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。」

『聖書と典礼』の注書きにあるように、この『マリアの賛歌』と言われる箇所は、「教会の祈り」の「晩の祈り」で唱えるところなので、親しみのあるものでもあります。このとおりにマリアが言ったかどうかは別にして、実は非常に重要な要素が詰まった

内容となっている箇所です。そのことを念頭に置きながら読み返した時、この「今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう」という言葉に、鳥肌が立つような思いがしました。マリアの半生を見ると、とてもこの世的な「幸福」とは程遠いものに思えたからです。これは言わば「神さまの目から見た幸い」でしょう。それは必ずしも、わたしたちが描く個人としての、そして、この世的な「幸福」と同じとは限りません。それどころか、マリア自身がそうであったように、時には自分にとって都合の悪い、そして、苦しみを伴うものでもあったりするわけです。

「力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。」

わたしたちの内に神さまがはたらかれています、それは必ずわたしたちの救いにつながるもの…だからこそ、それに身を委ねます…カトリック教会が聖母に特別な尊敬を持つのは、そのような姿勢が信じる者の取るべきものに他ならないからです。

そして、この賛歌の中にあるように、「思い上がる者、権力ある者、富める者」がその座に居続け、「身分の低い者、飢えた人」がそのままであることは、神さまにとって決して「幸い」ではないのでしょうか。

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」

わたしたちにとって、一見都合の悪いこと、痛みを伴う出来事であったとしても、その中に必ず神さまのわざがはたらいている、それが必ず人々の救い

につながる、ということを感じて、ありのままに受け取る…そんな聖母の生涯に倣うことができるよう、豊かな取り次ぎを共に願いたいと思います。

